

## 多摩交流センターだより

TAMA市民塾 2022年4月開講講座  
中止のお知らせ

TAMA市民塾

TAMA市民塾では、公募による講師と市民の発想・企画運営による新しい生涯学習(楽習)を提供しています。

2020年から続く新型コロナウイルスの感染拡大により、緊急事態宣言が度々発出され、TAMA市民塾においても講座の塾生を募集しながらも開講できない状況が続いています。

TAMA市民塾の講座を開講するには、講師の選定や日程等の調整、カリキュラム内容の決定など準備が必要なことから、**2022年4月開講講座を中止することになりました。**

再開は今後の新型コロナウイルス感染状況をふまえながら、2022年10月開講を目途に準備を進めていきます。講座を楽しみにされていた皆様のご期待に沿えず心苦しくはありますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

また、TAMA市民塾は皆様にユニークで楽しい生涯学習の場を提供できるように、新しくホームページを開設いたしました。

『TAMA市民塾』ホームページ <https://tama-shimin-juku.com>

TAMA市民塾問合せ先  
TEL 042-335-0111 (土・日・祝を除く9:00~16:00)  
Eメールアドレス [tama\\_shimin\\_juku@true.ocn.ne.jp](mailto:tama_shimin_juku@true.ocn.ne.jp)

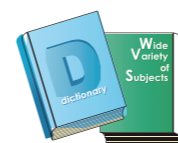
広域的市民ネットワーク活動支援  
申請団体募集中!

多摩地域で広域的な市民活動をしてみたい、または、拡充したいとお考えの市民団体を対象に、活動の発表の場等の経費の一部を助成する制度です。

随時相談を受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。

[問合せ先] 公益財団法人 東京市町村自治調査会 事業部 企画課  
TEL 042-382-7781

詳細はこちら▶

特定非営利活動法人  
東京雑学大学

※受講の際は、必ずマスク着用のこと!

## 2022年1月講義案内

受講料 1月16日は会員・会員外ともに500円(資料代含む)  
その他は会員無料・会員外は1回につき500円

日時	講義テーマ	教授	教場
1月16日(日) 13:30から	【新春特別講座】 余興 和太鼓演奏(田無卑弥鼓) 講演 江戸のリテラシー ー江戸小咄に見る文字環境ー	大石 学 氏 (東京芸芸大学名誉教授)	コール田無 多目的ホール (西武新宿線田無駅北口 徒歩7分)
1月20日(木) 14:00から	鳳笙の源流を尋ねて ー笙はなぜ吹いても吸っても音が出るかー	鈴木 治夫 氏 (笙製作・演奏者・ 元東京芸術大学非常勤講師)	武蔵野スイングホール 南棟10階 スカイルーム (JR武蔵境駅北口 徒歩1分)
1月27日(木) 14:00から	「世界LRT」または 「日本低成長はなぜ?」	中島 啓雄 氏 (元JR貨物鉄道常務取締役・ 元参議院議員)	小金井市市民会館「萌え木ホール」 (JR武蔵小金井駅南口 徒歩7分 小金井市会館3F)

☆申し込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

[問合せ先] TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原) 東京雑学大学ホームページ <http://t-zd.life.coocan.jp>

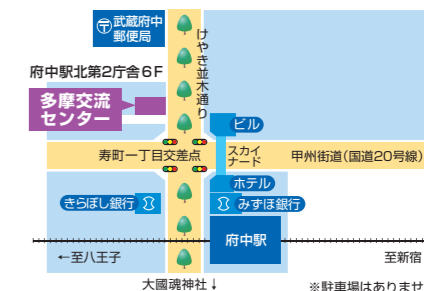
※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、2022年1月講義を中止させていただく場合があります。  
詳しくは東京雑学大学までお問い合わせいただくか、東京雑学大学のホームページをご覧ください。

## 「多摩交流センターだより」の問合せ先

## (公財) 東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F  
TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127  
ホームページ <https://www.tama-100.or.jp>  
(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的なネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



## 編集後記

- 2021年もあと1ヶ月。「我慢(耐える)」、「これから発展する前触れ(芽が出る)」の年とも言われる丑年が終わろうとしています。コロナ禍に耐えた一年でしたが、後半は、ワクチン接種や季節性などの要因からか感染者が減少し、緊急事態宣言解除や、来年前半には治療薬の処方が見込まれるといった報道もあり、ようやく収束に向けた明るい前触れが期待される年だったかと思えます。とはいえ、専門家からは、第6波の感染拡大を危惧する声も聞こえ、緊急事態宣言再発出もありえます。収束までは、引き続きマスク着用や手洗いなどの基本的な感染防止に取り組んでいくことが重要です。
- 今年は、スポーツに関する明るい話題が多かった年でした。夏に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、無観客開催となりましたが、日本が過去最多のメダルを獲得したのをはじめ、アスリートによる最高のパフォーマンスは、コロナ禍で落ち込んでいた国民に感動を与えてくれました。また、海外における日本人選手の活躍も目立ちました。なかでも、大リーグの大谷翔平選手の大活躍は目覚ましいものがありました。いわゆる「二刀流」が開花し、ペーブ・ルース以来や大リーグ史上初といった記録を打ち立て、大谷選手の一挙手一投足に日本中が湧きました。ゴルフでは、4月に開催されたマスターズトーナメントの松山英樹選手の優勝や、6月の全米女子オープンでは、笹生優花選手が畑岡奈紗選手との日本人同士のプレーオフを制しました。さらに、テニスでは大坂なおみ選手が2年ぶり2度目の全豪オープンで優勝

るなど、こうした活躍は、子どもたちにとって、夢を実現できる大きな目標になるものと思います。

- 当調査会が取り組んでいる地球温暖化防止対策関連では、10月に愛媛県出身の真鍋淑郎氏のノーベル物理学賞受賞に感銘を受けました。コンピュータで地球の気候を再現する「気候モデル」を開発し、気候変動予測の基礎を築いたことが評価されたものですが、その気候モデルが、1960年代に確立していたことに驚きを感じました。一方で、このモデルから得られる地球温暖化の危機を世界中が認識し、脱炭素社会を目指した世界的な取組がもっと早く始まっていたらと多くの方が思ったのではないのでしょうか。
- 今年も異常気象による自然災害が頻発しました。7月、8月と梅雨前線や秋雨前線の活発化による大雨の影響で河川の氾濫や土砂災害が相次ぎました。今回の災害で被害に遭われた方々にお見舞い申し上げるとともに、日頃から重大な災害に備えることを再認識しました。
- 秋には、2年続けて政権交代があり、10月末に衆議院議員選挙が行われ国民の審判が下りました。各党の選挙公約には現金を国民に配る給付金など「分配政策」が並びました。政治家の皆さんには、コロナ後の疲弊した日本経済や国民生活の再生はもちろんですが、全国民が安全・安心に、そして将来に明るい希望の持てる国にするために努めて欲しいと切に願います。「胎動を助ける」とも言われる寅年の来年は、その足掛かりとなる年であることを祈念します。(K・K)